

パブリックコメント意見募集の結果公表

第3期帯広市中心市街地活性化基本計画（原案）に対して、市民の皆様からご意見を募集しました結果について、ご意見の概要と市の考え方は下記のとおりです。ご意見をお寄せいただきありがとうございました。

【意見募集結果】

案 件 名	第3期帯広市中心市街地活性化基本計画（原案）		
募 集 期 間	令和元年11月25日（月）～令和元年12月24日（火）		
意見の件数 （意見提出者数）	11件（ 2人）		
意見の取り扱い	修正	案を修正するもの	0件
	既記載	既に案に盛り込んでいるもの	1件
	参考	今後の参考とするもの	1件
	その他	意見として伺ったもの	9件
意見の受け取り	持参		0人
	郵送		1人
	ファクス		0人
	電子メール		1人

【意見等の内容】

市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
<p>【1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針】 住宅地の郊外化や商業施設の郊外立地は自然現象ではなく、行政として容認してきた経緯があるからではないのか。車社会の進展も同様である。コンパクトシティに逆行するこのような施策を過去に進めてきた反省・総括を計画の中に言及することが必要ではないか。</p>	1件	<p>【その他】 ご指摘の部分については、昭和30年代中頃以降に人口増加による住居不足が深刻化したことを背景に住宅地が拡大し、その後、中心市街地の空洞化が進んできたことを受け、中心市街地の活性化を図るため、これまで様々な施策を展開してきたところです。 今後においても中心市街地のさらなる活性化に向け、中心市街地活性化基本計画を軸に様々な取組を実施していく考えです。</p>

市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
<p>【1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針】 JR 帯広駅乗降客数の減少については、道東道供用開始に加えて、石勝線事故後の減便、スピードダウンによる利便性の低下も原因のひとつと考えられる。今後、増便や再度のスピードアップなど利便性向上が必要な旨の記載を追加してはどうか。</p>	1 件	<p>【その他】 JR 帯広駅乗降客数の減少については十勝圏と道央圏を結ぶ道東自動車道の開通など様々な要因があるものと捉えております。 本市では、これまでも鉄道の高速化に向けた要請等を行ってきたところでありますが、今後においても、JR のみならず様々な交通事業者等と連携しながら、地域公共交通の利便性向上を図り中心市街地の活性化につなげてまいります。</p>
<p>【1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針】 路線バス利用者が微増しているとのことだが、さらなる増加のために利便性向上を図っていくべきことを追記してはどうか。</p>	1 件	<p>【既記載】 路線バスの利便性向上は中心市街地の活性化につながる重要な要素のひとつと考えており、125 ページには中心市街地におけるその必要性を記載しております。</p>
<p>【1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針】 市民アンケートの質問 3-1 で「公共交通の充実」という選択肢があるが、今後調査する際には具体的にどのような方向性を目指すべきかについての質問を追加してはどうか。</p>	1 件	<p>【その他】 今後、アンケート等を実施する際には、市民の意見をより具体的に捉えることができるよう研究してまいります。</p>
<p>【1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針】 環境問題教室について、趣旨は良いが、対象は子ども中心からマイカーを利用している成人住民にまで広げ、積極的に推進すべき。また、市役所職員をはじめ、行政職員が日頃から通勤等で公共交通機関を利用する習慣をつけていくことが必要と考えられるため、行政機関においても職員対象の啓発活動を実施することを記載してはどうか。</p>	1 件	<p>【参考】 環境問題教室については、地域公共交通に係る分野計画である「帯広市地域公共交通網形成計画」の取組として、中心市街地活性化の取組と一体的に推進しているところです。 また、市職員の公共交通機関利用の促進に向けては、マイカー通勤の自粛の一環としてバス利用等促進の取組を進めております。 ご意見の趣旨は今後の事業の推進にあたっての参考とします。</p>
<p>【8. 4 から 7 までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項】 125 ページ 15 行目以降に「これまでの取組みを踏まえて今後も必要な事業を展開していく必要がある」とあるが、系統番号の重複解消や IC カードの導入など、今後の事業について具体的に記載してはどうか。 また、大都市部で展開されている広告付きバス停上屋については、設置費・維持費が広告料で賄われ、バス事業者や行政の持ち出しなしに利用者の待合環境向上につながることから積極的に導入を進めるべきである。</p>	1 件	<p>【その他】 交通関係の取組については、「8. [1] 公共交通機関の利便性の増進及び特定事業の推進の必要性」に考え方を示しております。 IC カード決済やバス停等の待合環境の改善など具体的な取組については「帯広市地域公共交通網形成計画」において記載し取組を進めているところです。 なお、系統番号の重複解消については、交通事業者とともに検討していきます。</p>

市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
<p>【8.4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項】 買い物共通バス券事業は、バスだけでなくJRにも拡充することで、中心市街地への来街を促進すべき。</p>	1件	<p>【その他】 バス、JRなど移動手段の確保を図ることにより、中心市街地の活性化につなげていくことは重要であると認識しております。 なお、いただいたご意見については、買い物共通バス券事業の実施団体へお伝えします。</p>
<p>【8.4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項】 高齢者おでかけサポートバス事業についても、バスだけではなくJRに拡充し、無料ないし割引で乗車できるようにすべき。</p>	1件	<p>【その他】 本事業はバス事業者と連携し、バスを利用した来街を促進する事業であり、JRにも対象を広げることは、財源の確保や運用手法の構築など多くの課題があるものと認識しております。 ご提案の内容については、ご意見として伺います。</p>
<p>【8.4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項】 帯広駅前バスターミナルはどの乗り場から発車するのか非常に分かりにくいので、大きな見取り図を設置したり、各バス乗り場に液晶モニターを設置して、その乗り場から発車するバスの行き先と時刻を表示するようにすべき。</p>	1件	<p>【その他】 多くの市民や観光客等が利用するバスターミナルにおいては、誰もが利用しやすい環境づくりを進めていくことが重要であると考えております。 ご指摘の点については、更なる利便性の向上に向けて、交通事業者とともに検討を行ってまいります。</p>
<p>【8.4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項】 とち帯広空港行きのバスの運行経路が複数ありわかりにくい。バス会社間の連携を図り運行経路の統一をはかるべき。</p>	1件	<p>【その他】 とち帯広空港との連絡バスについては、現在2社のバス事業者が運行しておりますが、各社とも、利用者の利便性やニーズ等を踏まえて運行経路を設定していると伺っております。 なお、ご提案の内容については、バス事業者にお伝えします。</p>
<p>【10.中心市街地における都市機能の集積の促進を図るための措置に関する事項】 帯広市は鉄道高架事業や土地区画整理事業等によって市街地中心部の再開発を促進してきた一方で、近年は道東道の開通等によってJR利用者が減少している。 こうしたことも中心市街地の人の入り込みが減少し、中心市街地の衰退に拍車をかけていると感じるが、中心部の活性化を図るため、JRの利用促進を図ることで、帯広市民がJR帯広駅に来るよう促すことが大事だと考える。</p>	1件	<p>【その他】 中心市街地の活性化には様々な要素があり、バスやJRなどの公共交通の充実は本市の中心市街地の活性化の重要な要素であると認識しておりますが、市民生活においては、JR、バスのほか自家用車など、交通手段の特性や移動の目的などに応じた利用がなされているものと認識しております。 ご提案の内容については、ご意見として伺います。</p>

【案件の最終案】

別紙のとおり